

令和7年度 都城市立木之川内小学校 学校運営協議会評価報告書

～ 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する 0：よく分からない ～

目指す児童像	重点目標	主な取組	評価項目	自己評価			総合評価	自己評価コメント ※()内は、評価項目に対して「3」「4」と答えた割合	学校関係者評価コメント	評価
				児童	保護者	教職員				
自分のよさや可能性を伸ばす	自ら学ぶ子どもの育成	学習意欲・木小スタンダードの定着	3.3	3.6	2.8	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も2回の授業研究を行い、読み解く力の育成及び木小スタンダードの徹底を図る授業改善に取り組んだ。木小スタンダードについては、学年の実態を分析し、学習指導要領を設定したり、家庭へ協力を求めたりして定着を図っていくことが必要である。(「進んで学習に取り組む」児童83% 保護者98% 「木小スタンダードの定着」教職員78%) 	<ul style="list-style-type: none"> 木小スタンダードを基盤とした学習規律は概ね定着しており、授業中の姿勢や学習環境の安定という点では一定の成果が見られる。一方で、スタンダードが「守るべき型」として受け止められることとなり、児童自身が学びを振り返り、活用する段階には十分でない。今後は、スタンダードを単なる行動規範ではなく、学習力を高めるための道具として児童が自覚的に使えるようにする指導が求められる。 可能なら授業研究を増やすと良いと思う。 問題解決の学習意欲が児童に見られる。しっかりと読んで問題の意味が分かった成功体験の蓄積が必要だと感じる。 保護者の数値が低い根拠、理由が知りたい。興味がある。 3者(児童、保護者、教職員)とも高評価である。今後の取組で教職員4を期待したい。 児童、保護者と教職員との自己評価に差を感じる。学校の取組を分かりやすく伝えてほしい。 	3	
		表現力の育成	2.9		3.1		<ul style="list-style-type: none"> 授業中に積極的に発言する児童とそうでない児童の二極化が見られる。ICTを効果的に活用することで児童の意見を取り入れる等の工夫を行っているが、自分の考えをはっきりと分かりやすく言うことができない児童が26%いるため、どんな意見も認め合える学級の雰囲気づくりに努め、児童一人一人が自分の考えをもち、自信をもって発言できる学習活動を工夫・改善していく必要がある。(児童69% 教職員89%) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いやICTを用いた活動は行われているものの、発言や表現が一部の児童に偏り、全体として表現力が伸びているとはいえない。「表現する場を設けていること」「表現力が育っていること」は異なる。今後は、発言の質や変化を評価指標として捉え、段階的な指導計画と成果の検証を伴った表現力育成が必要である。 数回の授業参観の印象でしかないが、自分なりに、自分なりの言葉で発言、発表できている児童が多いと感じた。 発言できる雰囲気づくりが大事だと思う。 先日の研究公開授業でも大勢の先生たちの前で普段と変わらぬ発表していたのでよかったと思う。 スマフォの普及によって、コミュニケーション能力の未熟な児童が増えてきているように思う。発言の苦手な児童も、ちょっとしたきっかけで自信をもつことで、成功体験を増やしてあげるといいと思う。 児童の評価が69%と高めになっている。児童が自信をもって発言できる雰囲気づくりに努めてほしい。 授業の中で一つの答えを導くまでの過程をもっと自由に多角的にアプローチで導き出すことを認め合えることが必要かもしれない。(考える過程の楽しさ、満足度) 	2.9	
		基礎学力の向上	3.8	3.7	3		<ul style="list-style-type: none"> 児童も保護者も教職員が分かりやすい授業を行っていると感じている。今後は、ICTや校外の研修への参加を通じて、教職員の指導力を高めていくことが必要である。(児童100% 保護者100% 教職員89%) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童・保護者双方から高い評価が得られており、授業の構成力や説明の工夫が学校全体で共有されている点は本校の大きな強みである。これまでの取組が成果として明確に表れており、高く評価できる。今後はこの強みを基盤に、「分かる授業」から「考えを深める授業」へと発展させ、より高次の学力育成につなげていくことを期待する。 教職員の良き一言が児童に響いていると思う。 このまま続けてほしい。 少人数のクラスなので、先生の目が届きやすいと思う。 授業参観を通じて、教職員の分かりやすい授業への取組は評価できると思う。 3者とも高評価。今後も引き続き苦学意識の解消をお願いする。 分かりやすい授業だと評価されており素晴らしい。 	3.8	
		特別支援教育の視点を活かした授業の推進	3.4	3.5	3.1		<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書や掲示物等を活用したり、学習にまつている児童には個別指導を行ったりすることを通して苦学意識の解消に努めている。今後は、個に応じた指導を行い、学力向上に努めていく必要がある。(児童86% 保護者93% 教職員89%) 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導や声かけなど、児童に寄り添った支援が行われている点は評価できる。しかし、対応が個々の教職員の力量や経験に依存している面も見受けられる。今後は、支援事例や成果を学校全体で共有し、組織的・継続的な支援体制として確立していくことが求められる。 苦学意識解消になり良いと思う。 3者(児童、保護者、教職員)とも高評価である。その点を注視してほしい。 小学校時代に苦学意識を先覚でいると、大きなハンデになるので、個別指導で解消してほしい。 3者とも高評価。今後も引き続き苦学意識の解消をお願いする。 個々に合った個別指導を行っていることは児童や保護者にとって有難いことだと感謝する。 	3.2	
		読書活動の推進	3.1	3.1	2.8		<ul style="list-style-type: none"> 図書館サポーターや職員、図書委員会、ドロップスによる読み聞かせを行っている。図書館サポーターによる様々な取組やよみかみ等の貸出、学校への寄贈も毎年行われている。毎朝、「全校読書の時間」を5分間設定している。1・2年生は1・2月に市立図書館の見学を行っている。休み時間にも本を読んでいる姿が見られる。本の貸出冊数が昨年度より増えているが、これまでに取組に加え、各学年の目標冊数を定め、図書に接する機会を確保しながら貸出冊数の増加を図っている。(児童69% 保護者74% 教職員78%) 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせや地域ボランティアの協力により、読書に親しみ環境は整えられている。ただし、これらの取組が日常的な読書習慣の定着や学力向上にどの程度結びついているかは明確ではない。今後は、読書活動を学習と関連付け、量と質の両面から効果を検証する視点が必要である。 タブレットを見る機会が多いが、何となくたたく本を借りて読む。 貸出冊数「くれよん号」も含まれているのだから、もう少しでなければ含んでほしい。 スマフォの普及によって、コミュニケーション能力の未熟な児童が増えてきているように思う。発言の苦手な児童も、ちょっとしたきっかけで自信をもつことで、成功体験を増やしてあげるといいと思う。 児童の評価が69%と高めになっている。児童が自信をもって発言できる雰囲気づくりに努めてほしい。 授業の中で一つの答えを導くまでの過程をもっと自由に多角的にアプローチで導き出すことを認め合えることが必要かもしれない。(考える過程の楽しさ、満足度) 図書館へ行く機会を増やして興味をもつようにしてはどうか？(授業で調べものをする、宿題をする、いろいろなジャンルの本を手にとってみる。) 	3	
自ら友だちや自然との関わりを深める	思いやりのある行動	あいさつや返事の励み	3.4	3.5	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、児童玄関の前で、班ごとに大きな声であいさつをすることを継続して行っている。昨年度よりも、元気のよい大きな声のあいさつが増えている。職員に自ら進んであいさつをする児童も多い。友達同士のあいさつや名前を呼ばれた返事をするという基本的なこと今後も継続して行っていく必要がある。(「あいさつや返事」児童83% 保護者96% 教職員67%) 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な指導により、あいさつの場面は増えているが、指導が弱まると行動も弱まる傾向が見られる。形式的なあいさつに終わらせず、相手を意識した自発的な行動へと高めていくことが課題である。 地域によるが、あいさつをしてもあいさつをしない児童がいると聞いたことがある。 毎朝の見守りの時には、何人かは大きな声であいさつしてくれるが、全体的に声が小さい。児童も大きな声であいさつしよう。 あいさつの指導はとても重要で、自ら進んであいさつ習慣を付けるように継続的に促していく必要がある。 大きな声で挨拶が多いと思う。今後はあいさつへの励みも入れてほしい。 3者とも高評価。関係性の基本であり、相手の存在を認め、信頼関係を築くための重要なコミュニケーションのきっかけとなるので、今後も元気のよいあいさつを継続してほしい。 	3.2		
		命の大切さや安全な行動	3.7	3.8	3	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さについての指導は継続されているが、危険を予測し主体的に行動する力の育成には課題がある。今後は、実際の生活場面を想定した指導を通して、判断力や実践力を高める取組が必要である。 このまま続けてほしい。 先ず自分の命を守る訓練をやっておくことと子供110番の場所、人を周知しておくことが必要だと思う。 安全・安全な環境づくりは私たち大人の役目だと思うので、これからも見守り活動を継続していきたいと思う。 3者とも高評価である。今後も引き続き取り組んでほしい。 白旗からの訓練や備えが大切だということを日々の訓練や日常の家庭や教員との会話から伝えてほしい。 	3.5			
		学校のきまりの遵守	3.3	3.7	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、「木小こっぴり子」を基に、全学年、学校のきまりについて指導している。また、夏季休業前や春休み前、家庭や地域での話し方についても指導している。集団登校の班によっては、一緒に来たかったり、班員を置いていたりする等のトラブルが起きることがあった。きまりの遵守については、家庭との協力を得ながら継続的に指導していく必要がある。(児童92% 保護者100% 教職員指導100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さについての指導は継続されているが、危険を予測し主体的に行動する力の育成には課題がある。今後は、実際の生活場面を想定した指導を通して、判断力や実践力を高める取組が必要である。 このまま続けてほしい。 先ず自分の命を守る訓練をやっておくことと子供110番の場所、人を周知しておくことが必要だと思う。 安全・安全な環境づくりは私たち大人の役目だと思うので、これからも見守り活動を継続していきたいと思う。 3者とも高評価である。今後も引き続き取り組んでほしい。 白旗からの訓練や備えが大切だということを日々の訓練や日常の家庭や教員との会話から伝えてほしい。 	3.3		
		不登校やいじめの早期発見・早期解決	3.6	3.6	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		体力の向上	3.2	3.4	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、「木小こっぴり子」を基に、全学年、学校のきまりについて指導している。また、夏季休業前や春休み前、家庭や地域での話し方についても指導している。集団登校の班によっては、一緒に来たかったり、班員を置いていたりする等のトラブルが起きることがあった。きまりの遵守については、家庭との協力を得ながら継続的に指導していく必要がある。(児童92% 保護者100% 教職員指導100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
他者を尊重し協働する子	健康的な生活習慣の定着・給食指導と学習指導の充実	テレビやスマホ、パソコン使用のきまりの遵守	2.9		3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さについての指導は継続されているが、危険を予測し主体的に行動する力の育成には課題がある。今後は、実際の生活場面を想定した指導を通して、判断力や実践力を高める取組が必要である。 このまま続けてほしい。 先ず自分の命を守る訓練をやっておくことと子供110番の場所、人を周知しておくことが必要だと思う。 安全・安全な環境づくりは私たち大人の役目だと思うので、これからも見守り活動を継続していきたいと思う。 3者とも高評価である。今後も引き続き取り組んでほしい。 白旗からの訓練や備えが大切だということを日々の訓練や日常の家庭や教員との会話から伝えてほしい。 	3.5		
		運動への意欲	3.2	3.4	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、「木小こっぴり子」を基に、全学年、学校のきまりについて指導している。また、夏季休業前や春休み前、家庭や地域での話し方についても指導している。集団登校の班によっては、一緒に来たかったり、班員を置いていたりする等のトラブルが起きることがあった。きまりの遵守については、家庭との協力を得ながら継続的に指導していく必要がある。(児童92% 保護者100% 教職員指導100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		「早寝・早起き・朝ごはん」の定着	3.2	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 昨年同様、生活リズムを整え、生活習慣の改善を目指して指導している。週明けは家庭で実施し、週明けには意識して取り組んでいる。メディア2時間以内ができた児童も昨年度よりは増えているが(71%→78%)、メディアの使用時間については、個人差が大きい。9月の参観日には、非行防止教室でSNSとの上手な付き合い方について児童や保護者に話をしていた。今回の調査結果からも、テレビやスマホ、パソコンを決められた時間内に見ない児童が36%いた。家庭との連携を図り、学級活動等の授業を行ったりする等の取組が必要である。(「メディアの視聴時間のきまりの遵守」児童64% 教職員指導78%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		安全・健康や食生活の大切さ、病気の予防の指導	3.6	3.6	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		運動への意欲	3.2	3.4	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、「木小こっぴり子」を基に、全学年、学校のきまりについて指導している。また、夏季休業前や春休み前、家庭や地域での話し方についても指導している。集団登校の班によっては、一緒に来たかったり、班員を置いていたりする等のトラブルが起きることがあった。きまりの遵守については、家庭との協力を得ながら継続的に指導していく必要がある。(児童92% 保護者100% 教職員指導100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
地域や社会と切り拓く子	地域とつながる学校	郷土愛	3.5	3.5	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		学校だよりやホームページ等の情報発信	3.8		3.5	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		要望や相談への対応	3.8	3.7	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		PTA活動の充実	3.4	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		地域の人材活用	3.5		3.5	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
地域や社会と切り拓く子	地域とつながる学校	PTA活動の充実	3.4	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		地域の人材活用	3.5		3.5	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		学校運営協議会等の協議結果の反映	3.1	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		地域内の中・小学校との連携	3.3		3.3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		
		学校運営協議会等の協議結果の反映	3.1	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の生活アンケートや教育相談、「はつとハート委員会」を開催し、全職員で共通理解を図っている。調査結果からも、人間関係は良好と考えられる。しかし、相手の嫌がる言葉使用でトラブルに発展してしまうことがあるため、随時指導していくことが必要である。(「悩みや心配事の教職員の対応」児童100% 「いじめや不登校のない学級づくり」保護者93% 教職員100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動では理解が進んでいるが、日常生活の中で行動として十分に表れているとは言えない。思いやりを「分かる」から「できる」へとつなげるため、具体的な行動場面での評価と振り返りが求められる。 思いやりを育む。 登下校中も上級生、下級生隔たりなく仲良く接している姿を見かけられる。 異学年構成の清掃や、1年生と2年生との交流活動等を意図的に実施している。昼休みの時間は異学年の児童が一緒になって遊ぶ姿が多く見られる。丁寧な言葉遣い、友達との関わりを深めている様子も見られる。引き続き、全教職員で連携して、人権教育を推進していく必要がある。(児童81% 保護者98% 教職員100%) 	3.2		